

プレスリリース

2016年3月14日

EL16-09

報道関係各位

公益財団法人 日本糖尿病財団
日本イーライリリー株式会社

第5回 リリー・インクレチン基礎研究助成プログラム 選考結果のお知らせ

公益財団法人 日本糖尿病財団(東京都文京区、理事長:岩本安彦 以下、日本糖尿病財団)と日本イーライリリー株式会社(兵庫県神戸市、代表執行役社長:パトリック・ジョンソン 以下、日本イーライリリー)が設立した、インクレチンの基礎研究を助成する「第5回 リリー・インクレチン基礎研究助成プログラム」の選考が日本糖尿病財団によって行なわれ、以下の基礎研究への助成が決定されました。

(順不同・敬称略)

氏名	所属	研究課題
綿田 裕孝	順天堂大学大学院医学研究科 代謝内分泌内科 教授	新規レポーターマウスを用いたL細胞新生機構の解明
三木 隆司	千葉大学大学院医学研究院 代謝生理学 教授	腸内環境とインクレチン分泌を結ぶ情報ネットワークの分子解剖
中江 淳	慶應義塾大学医学部 腎臓内分泌代謝内科 特任准教授	膵β細胞ピルビン酸カルボキシラーゼの空腹時インスリン分泌およびインクレチン刺激インスリン分泌における生理的役割の検討
山根 俊介	京都大学大学院医学研究科 糖尿病・内分泌・栄養内科学 特定病院助教	脂肪酸結合タンパク5(FABP5)によるGIP分泌制御機構の解明
佐藤 叔史	熊本大学大学院生命科学研究部 病態生化学分野 助教	GLP-1による膵β細胞低酸素改善の分子メカニズム解明
金藤 秀明	川崎医科大学 糖尿病・代謝・内分泌内科 主任教授	インクレチン受容体およびインスリン転写因子の発現を増加させる因子の網羅的検索

矢部 大介	関西電力医学研究所 糖尿病・内分泌研究部 部長	インクレチンによる膵β細胞老化抑制: 包括的メタボロミクス、トランスクリプトミクスによる分子代謝基盤の解明
岩崎 有作	自治医科大学医学部生理学講座 統合生理学部門 講師	希少糖 D-Allulose による内因性 GLP-1 分泌促進と糖尿病・過食・肥満改善

リリー・インクレチン基礎研究助成プログラムは、糖尿病治療薬として近年期待が高まっているインクレチンの機序や病態解明に関わる革新的な基礎研究を推進することを目的に、日本糖尿病財団と日本イーライリリーにより 2011 年に設立されました。

本プログラムへの応募資格者は、日本人で、日本国内で基礎的研究を行う研究者とし、臨床研究は本研究助成プログラムの対象外となります。第 5 回の応募期間は、2015 年 11 月 9 日から 2016 年 1 月 9 日までで、選考は日本糖尿病財団選考委員会により実施され、理事会によって最終決定されました(なお、日本イーライリリーは、選考について一切関与しておりません)。助成期間は 2016 年 4 月より 1 年間で、研究課題 1 件につき 100 万円以内を助成します。

日本糖尿病財団と日本イーライリリーは、本プログラムを通じて、インクレチンの基礎研究を支援し、糖尿病領域の病態解明、治療環境の向上に貢献していきたいと考えております。

この結果は、日本糖尿病財団のホームページでも発表されています。

<http://www.j-df.or.jp/grant.html>

以上

公益財団法人 日本糖尿病財団について

日本糖尿病財団は、平成 3 年 9 月に設立された厚生労働省認可の財団法人です。その後、公益法人改革に伴い、行政庁(内閣府)より公益財団法人の認可を得、平成 25 年 4 月 1 日に公益財団法人に移行しました。糖尿病に関する調査研究の実施及び助成、並びに糖尿病に関する正しい知識の普及・啓発活動の実施及び助成、糖尿病に関する国際交流活動の実施及び助成、糖尿病に関する印刷物の刊行など、さまざまな事業を行い、もって国民の健康の増進に寄与することを目的としています。詳細はホームページをご覧ください。<http://www.j-df.or.jp/>

日本イーライリリー株式会社について

日本イーライリリー株式会社は、米国イーライリリー・アンド・カンパニーの子会社で、人々がより長く、より健康で、充実した生活を実現できるよう革新的な医薬品の開発・製造・輸入・販売を通じて日本の医療に貢献しています。統合失調症、うつ、双極性障害、注意欠如・多動症(AD/HD)、がん(非小細胞肺癌、膵がん、胆道がん、悪性胸膜中皮腫、尿路上皮がん、乳がん、卵巣がん、悪性リンパ腫、胃がん)、糖尿病、成長障害、骨粗鬆症などの治療薬を提供しています。また、アルツハイマー型認知症、関節リウマチ、乾癬などの診断薬・治療薬の開発を行っています。詳細はウェブサイトをご覧ください。

<http://www.lilly.co.jp>